

## 前回の論点とそれに関する主なご発言

## ○ 「統合医療」を、どのような概念として捉えるべきか。

- ・ 「統合医療」とは、近代西洋医学とそれ以外の伝統医学や相補・代替医療とを統合したものと言えるのではないか。
- ・ 誰（国家有資格者、その他）が誰に対して行う療法について検討するのか整理すべき。
- ・ ある程度のところで定義や範囲を決めてから議論してはどうか。
- ・ 最近の科学の方向性として、複雑系等が言われている。西洋医学と「統合医療」を必ずしも対立的にとらえる必要はなく、むしろ、新しい科学のあり方、医療のあり方をつくっていく視点で考えてはどうか。
- ・ 近代西洋医学は急性疾患に対しては多大なものがあったが、がん等の慢性疾患については限界が生じていること、臓器別に細分化が進んで全体が見えないこと、及び医療医療費が増大していること、という背景があることを共通の認識として持つべき。

## ○ 「統合医療」について、現時点において、どの程度の科学的知見が得られていると言えるか。

- ・ 「統合医療」の評価基準の策定は非常に困難とされている。個人の反応が異なることからランダム化比較試験（RCT：Randomized Controlled Trial）が実施できない分野が多くある。

## ○ 「統合医療」の安全性・有効性等について、どのように評価したらよいか。

- ・ 副作用や医療事故につながっているものが現実にある。安全性・有効性の評価が非常に重要であり、安全性・有効性がきちんとした形で評価されなければ、推進はできない。
- ・ 新しい評価手法（プロテオーム解析、fMRI等）によって、今までブラックボックスであったところが、今後、客観的に解明されていくのではないか。
- ・ 集団としての再現性もあれば、個人個人における再現性もある。これから個別化医療の時代に入っていくと、集団のエビデンスを出すというより

は、個人個人に合わせた評価を行っていくことになるのではないか。米国立衛生研究所（NIH：National Institutes of Health）は RCT だけではなく、ベストケースやケースレポートの評価も行っている。

- ・ 再現性・普遍性がないとコクラン（The Cochrane Library）のエビデンスレベルでは最下等で評価される。

○ 「統合医療」を推進していくためには、どのような取組が必要か。

- ・ 「統合医療」には良いものとそうでないものとが共存している。このため、評価する基準を明確につくる必要がある。その上で、国内外のデータを整理して分析する必要があるのではないか。
- ・ 有害事象を含めた情報発信を消費者に対して正確に行っていく必要がある。